令和８年９月栃木市教育委員会定例会会議録

令和８年９月栃木市教育委員会定例会を、令和８年９月２５日栃木市役所に招集した。

１　本委員会の出席者は、次のとおり

青木　千津子教育長　　上野　耕史職務代理者　　五十嵐　幸男委員　　西脇　はるみ委員
大塚　裕子委員　舘野　知美委員　　岩崎　好宏委員

２　本委員会の欠席委員は、なし

３　本委員会に出席を求められた職員は、次のとおり

教育次長	五十畑肇
教育総務課長	飯島彰
学校教育課長	宮堀純也
美術・文学館課長	高久一典
教育総務課主幹	楯本晃輔

４　本委員会の署名委員は、次のとおり

上野　耕史委員

５　本委員会の書記は、次のとおり

教育総務課　橋本　汐里

６　本委員会の会議案件は、次のとおり

日程第１　会議録の承認

日程第２　教育長報告

日程第３　その他

《会　議》

教　育　長　　―　午前９時３０分定例会の開会を宣し、出席委員、出席を求められた職員、署名委員、書記及び会議案件を報告する。　―

教　育　長　　日程第１　会議録の承認についてでございます。８月定例会の会議録につきましては、あらかじめ委員の皆様に配付させていただいたとおりでございます。ご質問ご意見等はございますでしょうか。

―　なしの声　―

教　育　長　　それでは、会議録への署名を岩崎委員にお願いいたします。

教　育　長　　次に、日程第２　教育長報告でございます。

―　９月栃木市定例校長会の資料に基づき説明　―

１　はじめに

２　夏季休業中の本市主催事業を通して確認された成果から

○“あったか栃木”いじめ防止子どもフォーラム（８／７オンライン）より

○広島平和記念式典中学生派遣報告会（８／２９於：都賀公民館）より

３　実りの秋に向け、２学期のスタートに当たって特にお願いしたいこと

（１）新たな不登校を生まないために、今こそ特段の配慮を！

長期休業明けの新学期。子どもたちの小さな変化を見逃さず、情報の共有と組織での適切な対応に努めること。特に、少しでも気になる児童生徒への早め早めの声かけ、家庭や関係機関等との密なる連携を図ることはもとより、現在、既に不登校傾向にある児童生徒への、引き続きのきめ細やかな対応に心を砕かれたい。

（２）夏季休業中の研修で得た学びの実践化を！

今夏も、校内外で様々な研修が実施され、多くの教職員が普段では得られない多くの学びを得たことと、それらの学びを、２学期からの教育実践に生かせるよう、延いては学校力の向上に繋げられるよう、管理職として創意・工夫ある働きかけをお願いしたい。

（３）タブレット端末の有効活用の推進に向けた組織としての対応を！

ＧＩＧＡスクール構想第２ステージを迎える今、改めて授業等でタブレットを活用することの意義を全教職員で共有し、その活用の在り方について学校としての姿勢を明確にすること。その際は、以下の視点を大切にされたい。

①タブレットをどのように活用すれば、これまでの授業では十分に実践できなかった「子どもの学び」を可能にできるか

②授業改善の肝は、教師一人ひとりの授業観であり子どもを見る目であること→ＩＣＴ担当者だけに任せてはいないか

③子どもたちに、これからの時代を生き抜くために必要な学びの機会が保障されているか

４　おわりに

新規採用教職員正式採用のための訪問に際して

別添資料：「先生だって、間違える日がある」

教　育　長　　私からの報告は以上でございます。ご質問等ございましたらお願いします。

岩 崎 委 員　　上野委員に１点お聞きしたいことがあります。先ほど教育長の報告で新規採用職員の方がタブレットの使い方が上手だとありましたが、今は教育学部の講義で、タブレットの活用についても指導をされているんですか。

上 野 委 員　　教員免許法が変わったことで、大学では「ＩＣＴ活用の理論と方法」という講義をやっていて、ちょうどそれを学んだ学生が教職員として採用され始めた頃かと思います。学校訪問に行かれた委員の方は分かるかと思うんですが、先生が端末に映しながら授業をやるというのは、どなたもやっています。でも、そうではなく、子どもがどのように使うかということが大切です。少し心配なのは、小学校ごとに活用の差があると、中学校の先生は苦労するのではないかということです。また、栃木県の高校では、今年からタブレットを購入してもらい、個人で持つようになりました。スマートフォンを使う際、自分に合ったアプリ入れて、自分に合った使い方をするかと思います。それと同じ感覚で端末を勉強に使うということが、目指しているところなので、そうすると、子どもがどう使うかということを経験していないと苦労してしまうのかなと思います。学校での管理にも少し関係してくるんですかね。例えば、端末を保管する場所が他の教室にあると、調べたいと思ったときに、取りに行かないと思うんです。本当は使いたいなと思ったときに、取り出してぱっと使い出す。中学生にもなると、分からないことがあったときに、辞書を引く子もいればタブレットで調べる子もいるといったように、どんどん自由に使えるようになってもらいたいです。昔は情報を集めることに苦労した時代でしたが、今は情報が多すぎて苦労する時代なので、莫大な情報をどのように生かすのかということを考えると、タブレットを使えないとまずいのかなと思います。また、今後教科書の内容も変わってきます。小学生のうちからＡＩを勉強するようになるかもしれないので、使い方を小さいうちに教えておかないと、信じ込んでしまう危険性もありますので、今のうちからどんどん使える環境を整えておいてほしいと思います。先ほど話にありました、新規採用教職員がタブレットの活用方法を他の先生方に研修したということは、活躍の場にも繋がってすごく良いことですね。

教　育　長　　２学期になって新採訪問を何度か行っているんですが、その中の２校で新規採用教職員がモデルになって他の先生の前でタブレットの使い方を紹介したという学校がありました。

上 野 委 員　　校長先生もよく利用していると聞きました。中学校でしか教職を経験していない先生が小学校で校長先生になったときに、ＡＩが頼りになるんだそうです。中学生向けにしか喋れなかった先生が、ＡＩに「小学校１年生にも分かるようにして」と頼んで伝わりやすい言葉に変えてもらうそうです。言いたいことは自分で考えるけれども、表現をサポートしてもらう。とても良い使い方だと思います。また、子どもは本当によく学びますよね。変な使い方をしてしまう子もいるので、そこは上手に教えてあげるっていうのが必要かと思います。

教　育　長　　他に何かご質問ございますか。

西 脇 委 員　　先日、学校訪問に伺わせてもらって少し気になったのは、タブレットを使用するとき、まずＩＤやパスワードを入力するんですが、少しややこしいアルファベットや記号なので、それを打てない子もいるんです。そこでつまずいてしまうと、

その後の授業での使用も、なかなか難しいのかなとは思いました。

教　育　長　　ぜひ有効に活用していただきたいと思います。やはり授業を見ていると、使わなきゃという思いがあって、皆さん一生懸命使ってらっしゃるんですけれども、この場面ではタブレットを使わなくても良いかもしれないなと思うこともあります。例えば、ある特別支援学級で折り紙の工作をしていたんですが、先生は一生懸命折り紙を折っている動画を撮影してきて、その動画を子どもに見せながら、折らせていました。でも、子どもは動画のスピードでは折れないので、途中で止まってしまいます。そうすると、先生は動画を止めて、前に戻しながら教えているんですが、先生がその場にいるのであれば、直接先生が折っているところを見せてあげた方が良いのではないのかなと思いました。これは極端な例ですけれども、たまに「ここはタブレットじゃない方がいいのかな」と思う授業もあって、どういう時にどんな使い方をするかというコツが分かると効果的なのかなと思います。

上 野 委 員　　教育長報告の３（３）タブレット端末の推進の②に「授業改善の肝は、教師一人ひとりの授業観であり子どもを見る目であること」と書いてありますよね。本当にそのとおりだと思いました。全国共通でこのアプリを使えば、勉強がはかどるというものがあったとして、問題集のようなものであれば良いかもしれませんが、指導法で考えれば、その子に合った使い方というのは、その子どもを見ているから適切な使い方が分かるんです。これがなければ全国どこの学校でも、どこの学年クラスでも、同じものを使えばいいという話になりますから。先日の学校訪問で、定規を使った授業を見させていただきました。動画で映すことも考えられますが、その授業では、きちんと先生が定規を使って見せて、「こうやって押さえて線を引くんだよ」と教えていました。初めて定規を使う子に対しては、実際にやって見せるという教え方が良いという判断ができていて、子どもを見る目がしっかりしてらっしゃるなと思いました。ベテランの先生がタブレットを上手に使い始めると、より良い授業になるんだと思います。使い方でいうと、若い先生の方が得意ですが、授業の上手さはやはり経験を積まれている先生方が勝ると思います。この「子どもを見る目」というのは良いキーワードだなと思いました。

教　育　長　　ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。

―　なし　―

教　育　長　　次に、本日は、議案等の議事はございませんので、日程第３　その他　に入ります。令和８年９月議会一般質問の答弁概要について、五十畑教育次長より説明願います。

教 育 次 長　　―　令和８年９月議会　教育委員会に関する一般質問の答弁概要についての資料に基づき説明　―

教　育　長　　本件について、委員の皆さまから、ご質問等ありましたらお願いいたします。

舘 野 委 員　　大浦議員からの学校のプールについての質問について、今後子どもの数がすごく少なくなってくると、プールの維持管理が大変になっていくかと思います。そういった状況を考えると、学校以外のプールを使用するなどの対応も視野に入れて考えないといけないかと思っています。また、維持管理だけではなく、先生方のリスク管理、子ども達の命を守ることに対する負担もすごく大きいと思うので、専門的な指導をしていただけるようなところにお願いしても良いのではないかと思いました。

五十嵐委員　水泳の授業での事故は最近起こっていますか。
学校教育課長　水泳での事故等はありません。
舘野委員　全国的にみると、死亡事故が起こったというニュースを聞いたりすると、他人事じゃないなと思います。
上野委員　近頃は気温が高すぎて水泳ができないとか、肌が弱い子が多いと聞きます。屋外プールだと、どうしてもプールに入る前に、説明を外で聞きますよね。そうすると、プールサイドで火傷しそうになるということも聞くので、今まで使用していたプールの施設が、今の環境に合っていないのではないかという話も出始めるかと思います。
舘野委員　プールの用意を持って行っても、今日は暑すぎて入れなかったといって、そのまま持って帰ってくることもあります。
上野委員　水道や電気代等の運用経費をかけてプールを準備しているのに、そこまで時間を使えないのであれば、市営プールや民間の水泳施設を利用するのも良いのではないかと思います。
教育長　そういった対応を始めている自治体もありますよね。
教育次長　はい。中学校では、プールの授業は実技を行わず、座学のみにしていたり、市営プールや民間の水泳施設を活用して、プールの授業を行ったりしているところもあります。ただ、そういった対応を本市に置き換えてみると、本市は広く、そういった施設が近くにないため、移動時間を確保することが難しいのではないかと考えております。ご存知のとおり、大平中学校ではプールがありませんので、座学のみとなっております。また、徐々に施設が老朽化しており、実際の授業では使っていない学校もございます。プールサイドがコンクリートでできている学校では、コンクリートの劣化により、裸足で歩く際に怪我をする恐れがあるということで、使っていないという状況になっております。今後はそういったことが増えていくと考えられますので、今後の水泳の授業と学校プールの在り方について、検討していきたいと答弁させていただきました。
教育長　時代に合ったかたちを考えていく必要がありますね。
舘野委員　泳げるようになる、ということも体育の授業の中で、重要かもしれませんが、最近は、川などでの水難事故がとても多いので、水の中に入った時の自分の体の動かし方ということが、プールの授業の中で培われるのではないかなと思っています。学校によっては、衣服を着た状態での訓練を行っているかもしれませんが、夏休み前にそういった訓練があるだけでも、水難事故が防げるのではないかと思います。
教育長　着衣水泳を行っている学校はあります。
教育次長　県の方が学校に来てくださって、着衣のままプールに入って、泳ぎ方等を教えてくれると聞いたことがあるので、学校によってですが、実施しているところもあります。
舘野委員　西方も大きな川に近かったり、小倉堰があったりするので、行ってはいけないと指導をしているかもしれませんが、何かあったときに心配なので、そういった訓練をしていると良いのかなと思いました。
教育次長　大浦議員も水泳の授業が無くなり、泳げなくなると、水難事故等が起こったときに自分を守れないのではないか。命を守るためにも水泳は残した方が良いのではないか、という趣旨での質問でした。なので、当然施設が老朽化しているのであれば、民間施設や市営プールを使用した方が良いのではないかといった提案を含む質問でした。
教育長　ありがとうございました。他にはいかがですか。
大塚委員　部活動として、やりたいスポーツがあるけれども、自分の学区の中学校には、その部活動がなくて、本当は自分の学校に行きたいけれども、部活動をやるために

は別の学校に変更しなきゃいけないことにすごく悩まれている、という話を他の保護者の方から聞くことがあります。川田俊介議員の質問に対する答弁の中で、学区を越えた学校部活動への参加について、その在り方について検討していくとありますが、今後実施していく予定があるということですか。

学校教育課長　自分がやりたい部活が指定校にない場合、その部活がある学校のうち、自宅から一番近い学校の部活に参加できるという方式を足利市が取り入れており、そのことを琴寄市長はマニフェストに掲げております。したがって、現在この制度について検討をしているのですが、少しずつ問題点が分かってきている状況です。少しだけお伝えしますと、足利市で採用している方式は、栃木県中学校体育連盟事務局では認めているものの、日本中学校体育連盟や関東中学校体育連盟では認められていません。そのため、もし上手な子がこの方式を利用して部活に入り、県大会に優勝し、関東大会に出た場合、「この大会ではその方式は認めていません」ということになり、大会に出られなくなる可能性があります。今後はそのあたりについて中学校体育連盟や各市町と連携をとりながら、本市としてどのように進めていくか、検討していく予定です。

教　育　長　ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。

―　なし　―

教　育　長　次に、教育委員による学校訪問についてのご報告をお願いいたします。栃木第五小学校については西脇委員より、皆川城東小学校については舘野委員よりお願いいたします。

〔栃木第五小学校についての報告〕

西脇委員　９月８日に今期の第１回目の学校訪問として、上野委員、五十嵐委員と一緒に栃木第五小学校へ行ってまいりました。学校の雰囲気がとても明るく、良い印象を受けました。校長先生から、不登校児童がいないことや「五小ファミリー」として、喜びも悲しみもみんなで分かち合うような集団を目指しているという報告がありました。掲示物に１学期を振り返った児童の感想などがあり、余計なものはなく、きれいでした。ロッカーも綺麗に整頓されており、清掃も行き届いていました。先生方は明るく授業をしていて、子ども達も真面目に聞いている印象を受けました。

教　育　長　ありがとうございます。一緒に訪問された委員の方は、他に何かありますか。

五十嵐委員　不登校児童がいないことについて、もちろん先生方や保護者の方の努力もありますが、この学校訪問を通して、先生方がとても良くコミュニケーションが取れていることが印象に残りました。この報告書に「職員室の雰囲気が良いため、放課後は職員室で仕事をする先生が多い」と書いてあるように、本当に先生同士のコミュニケーションが良く取れていて、そういったところが、子ども達にも伝わっていて、不登校児童がいないことに繋がっているのではないかなと思いました。実際に、子ども達も授業を受ける態度が良く、静かにしっかり聞いていました。

上野委員　ちょうど私達が訪問させていただいた時に、子どもがブランコから落ちてしまったんですが、その際に校長先生や教頭先生等が落ち着いて、適切な対応をしていました。こういう場で、とっさに適切な行動が取れるということは、普段から意識していらっしゃるからだろうなと思いました。

教　育　長　委員のみなさんが学校訪問された、ちょうど１週間後に私も共同訪問に伺ったんですけれども、本当に先生方も子ども達も明るいんです。笑顔に溢れていて、やはり、こういった雰囲気は学校全体の文化ですので、みんなが明るく、楽しく、

仲が良いということは、良いことだと感じた訪問でした。おそらく、委員のみなさんも同じようなことを感じたのではないかと思います。

〔皆川城東小学校についての報告〕

舘野委員　　９月１１日に上野委員、西脇委員と皆川城東小学校に訪問させていただきました。皆川城東小学校は、年々児童数が少なくなっていて、全校生徒が９１名。全学年が単学級という状況でした。各学年の子ども達の様子について、１・２年生の体育の授業では、とても活気があり、複式学級の良さを感じました。例えば２年生が１年生を応援する姿であったり、１年生が２年生を見て、自分も頑張ろうとする姿であったりを見て、こういったことが子ども達の学びに繋がっていくのだろうなと思いました。また、３年生の理科の授業では、自分で作った車に息を吹きかけて、どこまで走るか、というものでしたが、「どうしたら友だちのように進むのだろう」といった疑問が、子ども同士での活発なやり取りの中で解消されるような素敵な授業でした。何より子ども達が一生懸命、楽しそうに取り組んでいるなという印象を持ちました。４・５・６年生の授業は本当に静かで、この授業がどのようにして、「主体的・対話的で深い学び」に繋がっていくのかなということが少し気になりました。対話というよりは、先生が子どもに教えるような授業だったかと思います。ＩＣＴに関しても、みんなで無音の動画をただ見る時間があって、確かにモニターを使ってはいるけれども、この場面では先生が黒板で教える方が早く、楽しいのではないのかなと少し残念に感じました。使わされているような使い方になってしまっているのかなと思いました。令和１０年度に小学校教育研究会関東ブロックにおいて、学校課題「伝え合う力を高め、自分の考えを広め深める児童の育成」～考え、議論する道徳科の授業づくりを通して～について発表予定で、これから伝え合うということを頑張っていく、と校長先生はおっしゃっていました。私達がこの学校訪問のわずかな時間だけを見て、このように判断してしまうのはどうかとは思うんですが、クラスの中で自由に先生と対話ができたり、お友達と言い合えたりする環境がないと、いくら道徳科の授業で伝え合うと言っても、難しいのではないのかなと思いました。校長先生や教頭先生は、本当に一生懸命取り組んでいらっしゃるので、もう少し硬さをとって、楽しく学校経営ができたら良いのではないのかなと思います。

上野委員　　特別支援学校との連携活動をずっとやっていて、皆川中学校が栃木北中学校に統合されて、なかなか継続が難しい中でも、一生懸命取り組まれているということで、とても良い取り組みだと評価をしているところです。ただ、やはり単学級の難しさが少し出始めているのかなと思います。どうしても、人間関係が固定化してしまうんです。例えば、算数の授業では、あの子が発表したらもうそれが正解だと思って、他の子は発表しないといったことになる。少人数でも複数クラスあればクラス替えがあるので、人間関係がリセットできるので良いのですが。単学級の場合は自己肯定感が下がるという研究結果もあります。無理して自分で発表しなくても、あの子が発表してくれるから、という雰囲気になったり、あるいは自分はこの位置だから、と前向きさが徐々になくなったりする傾向がある。他学年が合同で授業を行う等、複式学級を取り入れたりすると、少し変わるかと思います。この学校でいうと、ちょうど１・２・３学年は元気だけれども、４・５・

６学年は静かというのは、ちょうど自己肯定感がなくなってきてしまったのかなと思います。特に少人数の単学級は固定化してしまって、難しいんです。でも逆に言うと先生達は授業をやりやすいです。この教科だったらあの子に聞けば答えが出てきて、他の子もはい、分かりましたとなりますので。そうならないようにするのが難しい。たかだか１時間の授業見て、こんなことを言ってはいけないと思いますが、せっかく良いことをやってらっしゃるので、学年を崩してみるとか、縦割りでやってみると、少し変わるのではないかと思います。しっかりとした指導をされているだけに、逆にそれが固定化にいってしまっていると感じて、もったいないなと思いました。

教　育　長　　昨日、他の単学級の学校に行ったんですが、そこでは校長先生のコミュニケーション力をつけたいという方針のもと、全校コミュニケーションワールドと称した活動を行っていました。縦割りしたグループをいくつか作って、例えば「外遊びと中遊びはどっちが好きか」といったテーマで話し合いするという場を設定しているそうです。そんなこともあってか、授業中も良くコミュニケーションを取っていました。やはり、単学級の場合は一工夫が必要なのかなと思います。他に一緒に行かれた西脇委員いかがですか。

西 脇 委 員　　種から稲を育てたり、低学年対象にレンゲ畑で遊んだりするような活動を行っているということで、良い活動だと思いました。また、男子トイレで外が見えてしまうということで、そこに紙を貼って見えないようにしたそうです。トイレのスリッパもすごく綺麗に整理整頓されていましたし、畳が少し置いてあるお部屋があって、みんなでくつろげるスペースがあり、そういった点が良いなと思いました。

教　育　長　　ありがとうございました。次に美術館企画展「絵師も動物も、人気モノ勢揃い　動物たちの浮世絵」、文学館企画展「吉屋信子と宇野千代」及びとちぎ Musee フェスの開催について、美術・文学館課　高久課長より説明をお願いします。

美術・文学館課長　　―美術館企画展及び文学館企画展、とちぎ Musee フェスの開催について説明―

教　育　長　　ただいまの説明について、委員の皆さまから何かご質問等ありましたらお願いいたします。

―　質問なし　―

教　育　長　　ありがとうございます。続いて、運動会の臨席について、学校教育課　宮堀課長より説明をお願いします。

学校教育課長　　―　運動会の臨席について説明　―

教　育　長　　御足労をお掛けいたしますが、どうぞよろしくお願いいたします。次に、事務局より何かございますか。

事　務　局　　―　なし　―

教　育　長　　ありがとうございました。以上で、本日の案件はすべて終了いたしました。他に、委員の皆様から何かございますか。

岩 崎 委 員　　小学校のときに単学級だった子で、小学校時代は不登校ではなかったけれども、中学校に行って、人数が増えたら、そこでうまくいかなくなってしまい不登校になってしまうとか、何か卒業後の統計はありますか。先ほどの話を聞いていて、４・５・６年生が今後どうなるのかなと心配になったものですから。中学校に行

ったら人が多くなったので、楽しくやっていますということなら全然いいんですけれども、たまに、小学校が小規模だったので、中学校行ったら、色々な小学校から人が来て、びっくりしてしまってということを聞くこともあるので、統計があればお聞きしたいです。

教　育　長　　統計は特にないですかね。

学校教育課長　　はい。

教　育　長　　小規模特認校である国府南小学校では、卒業後大規模校である東陽中に行くことになるかと思いますが、以前国府南小学校で教頭をしていた宮堀課長何かありますか。

学校教育課長　　その子の特性にもよるところなので、一概にこうだとは言えないんですけれども、今年度の広島派遣に東陽中学校の代表として、国府南小学校出身の子が行ったという例もありました。これはあくまで東陽中に限定して話させていただきますが、入学時のクラス編成の際に、できるだけ国府南小学校の子同士を同じクラスにして、慣れてきて２年生になったら、通常どおりに分けるというような配慮をしていただいているという話を聞いています。

上 野 委 員　　文科省時代にへき地・複式学校の研究も担当していたので、小規模校にいたこともあるのですが、小規模校の良さもあるんです。結局１人がやれる仕事が多いので、活躍して力をつけていくと、良い方向に進みます。前もお伝えしたかもしれませんが、大規模の小学校と１学年１０人程度の小学校が合併して、中学校に行くと、生徒会役員は全員小規模校の子達になるということもあります。活躍できるという良さもあるんですけれども、逆の方向に行ってしまうと固まって萎縮してしまうので、単純に考えることは難しいのかなと思います。

岩 崎 委 員　　子ども達の良さが、中学校で出せるといいなと思います。

上 野 委 員　　真面目さはとても良いところだと思うので、活躍する機会さえあればもっと発揮できるだろうなと思います。

教　育　長　　ありがとうございました。いただいたご意見参考にさせていただきます。それでは、これをもちまして本日の定例教育委員会を閉会といたします。ありがとうございました。

――　午前１１時０３分　委員会の閉会を宣言した。――

令和８年９月２５日

教 育 長

署名委員